

# 令和 5 年度指定管理者評価書

(令和 6 年度実施分)

猪名川上流広域ごみ処理施設組合



## 評価の概要

### (1) 施設名称

国崎クリーンセンター啓発施設

### (2) 施設の設置目的

ごみ減量及びリサイクルに関する情報の発信。並びに自然や環境問題について学習を通じ循環型社会の構築に寄与することを目的とする。

### (3) 指定管理者

株式会社トータルメディア開発研究所

### (4) 選定方法及び指定期間

選定方法： 公募

指定期間： 令和4年4月1日から令和11年3月31日まで

### (5) 評価対象期間

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

### (6) 指定管理委託料（令和5年度）

65,183千円

## 1 評価指標

### (1) 個別項目評価

- A： 協定書、事業計画書等の内容について、すべての業務計画を達成し、優れた管理・運営が行われている。
- B： ほぼ（8割超）業務計画の内容を達成し、計画とおりの実績（効果）があり、適切な管理・運営が行われている。
- C： 概ね（6割以上8割以下）業務計画の内容を達成しているが、一部改善・工夫が必要である。
- D： 協定書等の内容に対し、不適切な事項が認められ、改善を要する。

### (2) 総括評価 ※管理体制評価／経営状況評価／運営事業評価

- A： 個別項目評価が全てB以上であり、かつAが半数以上である。
- B： 個別項目評価の全てがB以上である。
- C： 個別項目評価にCが1つでも含まれる。
- D： 個別項目評価にDが1つでも含まれる。

### (3) 総合評価

- S：総括評価の全てがAである。
- A：総括評価が全てB以上であり、かつAが2つ。
- B：総括評価が全てB以上である。
- C：総括評価にCが1つでも含まれる。
- D：総括評価にDが1つでも含まれる。

## 2 所管課確認項目

### ● 管理体制に関する項目

(所管課チェック)

#### ① 施設の点検・保守管理

- ・ 協定で定める管理物件について、適切に管理されている。
- ・ 定期的に安全確認を行い、組合に報告されている。

#### ② 個人情報保護

- ・ 収集した個人情報は適切に管理されている。
- ・ 個人情報を目的外利用していない。

#### ③ 文書管理

- ・ 文書・帳簿等が適正に作成・管理されている。

#### ④ 備品管理

- ・ 備品台帳が整備されている。

#### ⑤ 指定管理者が行う修繕

- ・ 協定に定める管理物件の修繕について、適切に実施されている。
- ・ 修繕箇所について、随時、組合に報告されている。

### ● 上記1～5についての所管課所見

「いずれの評価項目においても適正に管理、執行されていることを確認し、良好であると評価する。」

項目	評価項目	指定管理者自己評価 評価年度においての実績や右評価とした評価事項等	評価
管理体制等に関する項目	<p>1 (適正な人員配置)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 事業計画に則した人員配置となっている</li> <li>● 指揮命令系統が確立されている。</li> <li>● 緊急時にも対応できる体制となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 令和5(2023)年度業務計画書に則って職員を適材適所に配置し、ワークショップ開催や各種啓発業務実施、地域連携の他、里山保全ボランティア育成、ごみ減量化へ向けた啓発活動などを行っている。</li> <li>● 組織体制・指揮命令系統等を定め、運用している。毎月2回の定例会に本社の担当者が出席し、本社からの直接の指示伝達や業務支援などを実施している。</li> <li>● 緊急対応ができるよう、安全管理マニュアル及び対応体制(非常時、緊急時の役割分担)、緊急連絡網を整備し、毎年更新している。また、常勤全職員が甲種防火管理者講習及び普通救命講習を修了している。</li> </ul>	A
	<p>2 (職員研修の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 事業計画に則した職員研修が実施されている。</li> <li>● 苦情や緊急時に適切に対応できるよう研修が実施されている。</li> <li>● 施設運営の質の向上に資する研修が実施されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 年間を通して延べ51人が環境カウンセラー研修や聴覚障がいのある方への対応に関する研修など計36件の講習や講座を受講した。2月に実施した聴覚障害のある方への対応の研修は初の実施で、全スタッフが受講した。こうした各種研修により実務能力向上に努めている</li> <li>● 「クレーム対応・危機管理研修」「ハラスメント研修」などを実施している。</li> <li>● 7月に東京都品川区立環境学習交流施設「エコルとごし」を視察し、11月に廃棄物資源循環学会環境学習施設研究部会が主催する視察研修で、「ゆめくりん」(愛知県知多南部広域環境センター)、愛知県「豊橋市バイオマス利活用センター」、同市「中島処理場」の視察研修に参加した。こうした視察研修を通して施設運営の質の向上に努めている。</li> </ul>	A
	<p>3 (日常業務及び緊急時等の対応)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 貸館業務利用許可や受付案内等が迅速で丁寧に行われている。</li> <li>● 苦情が頻発していない。</li> <li>● 苦情や緊急事態が発生した際の対応が適切に行われている。</li> <li>● 新たな課題を抽出し、適切に対応している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 貸館利用許可などの事務は原則として即日で行っている。利用者への受付案内は、即時対応している。</li> <li>● 苦情の覚知は数か月に1回程度。頻発している状態ではない。</li> <li>● 7月、「視聴覚室のエアコンが効かない」と利用者より申し出があったため、急遽別の部屋に変更してご利用いただいた。これ以降、酷暑・酷暑期には、利用時に適切な温度になるよう各室のエアコンの運転開始時刻を前倒しするなどして快適にご利用いただけるように努めている。</li> <li>● 9月のフリーマーケット来場者から「足が不自由なのに、乗用車を坂道の途中で駐車するように警備員に誘導された」と改善要望があった。その後、催事前には警備会社と障がいのある方や高齢の方への対応、駐車スペースの確保・誘導について綿密な打合せをし、スムーズな運営に向けた調整と見直しを継続している。</li> </ul>	A
	<p>4 (利用者の安全確保)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 安全確保対策を徹底している。</li> <li>● 職員に指導徹底している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 安全管理マニュアルを作成し、徹底している。館内の巡回時には、危険箇所がないかをチェックしている。</li> <li>● 安全管理マニュアルの内容は職員全員に徹底している。組合の自衛消防訓練に毎年参加している。</li> </ul>	A

所管課評価 指定管理者のヒアリングにおいて、確認した事項 等	評価	評価協議会評価 協議会内での質疑回答、備考等	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 火災などの緊急時における来館者等の誘導などについて、職員がそれぞれの役割を把握している。所長及び副所長がともに不在の際の対応も定められている。雨天や暑い・寒い時には倉庫棟へ誘導することを決めている。</li> <li>● 職員は希望した有給休暇を取得できている。休んでいる職員の仕事のフォロー体制ができている。</li> <li>● 過剰な時間外勤務とならないよう職員の状況を把握し、必要な対応を取っている。</li> </ul>	A	<p>【確認事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 項目 1～4 について、前年度と比べても努力し改善がされていることが伺える。</li> <li>● 研修について、聴覚障害のある方への対応研修のほかに、スタッフの手話通訳の研修を受講した実態があったかどうかを確認した。</li> </ul> <p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 研修の受講後に現場で研修の結果が活かされているかどうかの把握は、実際のところ難しいものがある。</li> <li>● 研修内容をスタッフ間で共有するための報告会等は、日常の業務に活かせるので重要である。</li> </ul>	A
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 参加した研修や受講した講習などの内容を職員間で共有できているが、今後、報告会などを行って成果の共有を深めることを期待する。</li> <li>● 障がいのある方への対応についての研修を受講するなど、運営の向上に向けた取り組みがなされている。</li> </ul>	B		
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 来場者からの要望の声に適切に対応している。</li> <li>● 苦情は数か月に 1 度程度で減少傾向にある。</li> <li>● 苦情や気が付いた点などは日報でスタッフ全員が共有している。</li> <li>● 業務のマニュアルがスタッフ全員で共有できている。改善すべき点なども全員で共有して検討がされている。</li> <li>● 緊急時の対策として、安全マニュアルに基づいた各担当がすべきことの周知がなされ、施設の消防訓練などを通じて実践されている。</li> <li>● 焼却施設の火災事故の際、施設の利用者を適切に避難誘導した。</li> </ul>	A		
<ul style="list-style-type: none"> <li>● マニュアルに基づき毎日、館内を巡回してチェックしている。半年ごとに重点的なチェックをしている。その結果、大きな事故は発生していない。</li> <li>● 修理工房では、危険な工具などはスタッフが付いて使用することとしている。</li> </ul>	A		

項目	評価項目	指定管理評価とした評価事項等	評価
経営状況に関する事項	5 (経理事務の実施状況) ● 収支にかかる帳票類が整備されており、適正な経理処理が実施されている。	● 月次で適切に処理しており、帳票類の内容を一覧化している。  ● 本社の経理担当者が随時、帳票量をチェックしている。また、本社の経理担当者が来館して定期的にチェックを行っている。	A
	6 (収支の状況) ● 収支計画書と収支決算書に大きな乖離がない。	● 事業収入合計は予算比 98%とほぼ計画とおりに収益を確保できた。 ● 里山学校開催のため里山事業協力費として確保していた予算については、外部からの助成金を確保するなどして予算比 37%で計画を実行できた。 ● 啓発施設の活動を支える人件費、事業関連費は十分に確保したうえで、事務費、管理費などの抑制に努め、収入と支出のバランスを確保した。	A
	7 (販売売上の状況) A : 350万円以上 B : 250万円以上350万円未満 C : 150万円以上250万円未満 D : 150万円未満	● 事業収入合計は 2,440,238 円であった。	C

<p style="text-align: center;">評価協議会評価 協議会内での質疑回答、備考等</p>	<p style="text-align: center;">評価</p>
<p>(1)ワークショップから発生する収益金</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● イベント・ワークショップは収益金の発生時に出納帳へ記載し、定番ワークショップについては予約票に基づき、ナンバリングされたチケットを購入頂き金庫に一時保管する。毎月ごとに施設専用口座へ入金する。</li> </ul> <p>(2)費用発生に伴う処理方法(会計処理)</p> <p>①小口現金での精算</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 主に移動交通費、少額な材料代及び備品の購入その他必要に応じて精算している。</li> <li>● 手順は予算執行申請書を作成して上長の承認を得ている。執行後、毎月15日と月末に帳票及び出納帳を大阪事務所へ提出し、その後東京本社にて内容チェックを受ける。</li> </ul> <p>②請求書に基づいた支払</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 事務所内で必要となる備品類の購入、イベント・ワークショップ時に必要な材料代及び月次定例になっている運賃、光熱費等の支払。</li> <li>● 手順は発注事案の発生に伴い、必要に応じて見積書を取り、上長の承認を得る。業者より送付された請求書に基づいて専用システムで経費伝票の起票をし、大阪事務所及び東京本社での承認をとり、東京本社の経理担当により業者への支払をする。</li> </ul> <p>③注文書を取り交わしての支払</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● イベント・ワークショップ、推進協力業者等への外注費の支払は注文書を取り交わして支払を行う。</li> <li>● 手順は業者より見積書を取り、計画書と共に上長の承認を取る。見積書をもとに注文書を発行して再度上長の承認を取って東京本社にて注文書に社印の押印をする。協力業者より請求書をとり、検収後上長承認を取り、東京本社経理担当にて業者への支払をする。</li> </ul> <p>(3)帳簿及び帳票類の閲覧</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● それぞれについて、上長等の承認が取れているかを確認した。その上で現金出納帳と領収書の突合、請求書に基づいた支払と請求書との突合、協力業者等への注文書と請求書及び支払明細書の突合、さらに個人委託先に係るものについては源泉所得税を控除しているかを確認した。</li> <li>● 一部に及び不明点があった為、当該事項についてはアドバイスをを行った。</li> </ul> <p>現金出納帳見積書、請求納品伝票、精算伝票及び予算執行申請書並びに使用料収入明細書、施設使用許可書等の各種書類は適正に保管・管理されていた。</p>	<p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● キャッシュレスへの対応は必要性が高まっている。</li> <li>● システムの導入はコスト面でのハードルが高い。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 総額については、概ね計画どおりである。</li> <li>● 個別では、人件費のうち後方支援スタッフ費用及び直接事業費が予算計画を上回った。前者は会計制度の変更(インボイス、電子帳簿保存法)等に伴う作業の増加による後方支援スタッフ費用の増加、後者は里山事業協力費が助成金の確保での実施となった為、当初計画より減少することとなった。当該減少分をイベントにつぎ込んだために直接事業費が増加したものである。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 販売売り上げ(事業収入)については講座・講演会参加費及び雑収入である。</li> <li>● ほぼ計画どおりであった。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">B</p>



項目		評価項目	指定管理者自己評価 評価年度においての実績や右評価とした評価事項等	評価
運営事業等に関する項目	8	<p>(利用者数)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>利用者数増加に向けた工夫がされている。</li> </ul> <p>【参考値】</p> <p>A: 3万5千人以上 B: 2万5千人以上3万5千人未満 C: 1万5千人以上2万5千人未満 D: 1万5千人未満</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間の総利用者数は、20,130人であった。</li> <li>コロナ禍で控えていた館内でのフリーマーケットを9月と3月に復活させた。9月の館内フリーマーケットは来場者795人、3月の館内フリーマーケットは785人を動員した。3月のフリーマーケットでは、小さな子供向けのじゃんけん大会(140人を動員)も復活させた。</li> <li>団体見学、講座参加者への電話でのフォローアップ、各種メディアを活用した広報活動、貸室利用者とのコミュニケーションなどの工夫で、利用者増加や再利用へつなげている。</li> <li>里山ヨガはキャンセル待ちができる人気講座であるため、会場の研修室の机をすべて取り払ったり、組合の管理棟スペースを借用したりするなどして、できるだけ多くの方ご利用いただけるよう努めている。</li> <li>地域への出前は継続し、さらに新たな機会を増やして利用者数増へ向けた工夫を続けている。今年度は来館者が少ない2月に、川西能勢口駅前の川西阪急での出前展示を行った。6日間で571人を動員した。国崎に来場者が少ない時期に川西市中心部に出前へ出ていったことで人数増へつながった。</li> <li>大規模催事の際は、能勢電鉄山下駅からの無料シャトルバス運行を継続し、利便性を高めている。</li> </ul>	C
	9	<p>(利用者満足度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>利用者のアンケート等により、利用者の満足度を把握し、業務が実施されている。</li> </ul> <p>【参考値】</p> <p>A: 「とてもよい」「よい」の割合が80%以上 B: 「とてもよい」「よい」の割合が60%以上80%未満 C: 「とてもよい」「よい」の割合が40%以上60%未満 D: 「とてもよい」「よい」の割合が40%未満</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講座、見学、催事後のアンケート(2,044名回答)において、スタッフの対応および内容についてどちらも「とてもよい」「よい」を合わせて98%の満足度となり、概ね高い評価をいただいている。</li> <li>モノづくりの講座に関しては、複数回連続の講座を増やし、参加者の作りたいモノ(実用的なモノ)に対応する等工夫をしている。</li> </ul>	A
	10	<p>(施設見学サポート業務)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校等団体見学や、一般見学者に対し、それぞれ見学者に応じた案内業務が実施されている。</li> <li>本施設の設置目的達成のための「ごみ減量及びリサイクルに関する情報発信」に取り組まれている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1市3町の小学校を含めた各学校の団体見学を例年とおり受け入れ、25校1,503名が来場された。各校の教職員と個別に打ち合わせを行い、着発の時間管理、廃材ワークショップ開催など、学校のご要望に合わせた提案と対応を継続している。令和4(2023)年度からは、川西市教育委員会が市内の全小学校の担当者を対象に3月に開く会議に出席し、調整している。幼稚園、保育所などの団体見学時には、低年齢向けの動画の視聴などもご案内し、年齢に沿ったガイドを心がけ実施している。</li> <li>川西市役所、キセラ川西プラザ、豊能町立図書館、川西阪急でパネル展示を行いSDGsやごみ減量、リサイクルの情報発信を行った。また、能勢町の小学生が環境学習の一環として行ったリサイクル工作の作品を館内や川西阪急で展示し、見学した方々にリサイクルへの関心を高めてもらった。</li> </ul>	A

所管課評価 指定管理者のヒアリングにおいて、確認した事項 等	評価	評価協議会評価 協議会内での質疑回答、備考等	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 出前講座が増加したことや、フリーマーケットが復活して回数が増えたことなどで、年間利用者数が増加した。</li> <li>● 学校から見学に来た小学校 4 年生が家族らと再訪したくなるような展示企画を計画している。</li> <li>● 人気が高い里山ヨガについて、出来るだけ多くの人に参加できるように、開催場所などを工夫している。</li> <li>● 利用者数の統計データを基に増加した月及び減少した月の状況を分析し、将来の事業実施の資料とすることを期待する。</li> </ul>	B	<p>【確認事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● コロナ禍後の利用者数の戻りが不十分ではないか。施設の認知度を上げる必要がある。</li> <li>● 入館者数以外に、Web サイトやインスタグラムの訪問者数も上げていく必要がある。</li> <li>● ゆめほたるが手配したシャトルバスには、フリマの際は約 100 人が乗った。</li> </ul> <p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● コロナで外出を控えるようになった社会の変化に対応する必要がある。</li> <li>● コロナ後に「屋外空間」を楽しむ志向が高まっている。「屋外空間」を活かした集客をする必要がある。</li> </ul>	A
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新たな講座を企画するなど、新規の受講者を呼び込む工夫をしている。</li> <li>● アンケートで満足度が低かった回答は主にフリマの「物が売れなかった」など、企画そのものに対する不満ではなかった。</li> <li>● 小学生の見学での「話が長かった」「声が聞こえにくかった」などの不満意見は真摯に受け止め、改善に向けた対策をスタッフ一同で検討し対応している。</li> <li>● 利用者増加や満足度向上などに関して、トータルメディア社が保有するノウハウや情報などがゆめほたるとも共有できている。</li> </ul>	A	<p>【確認事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● インバウンドへの多言語対応として、外国語による掲示を用意するなど、出来る範囲での対応は図っている。</li> </ul> <p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 途上国でも廃棄物や環境への意識が高まっているので、ゆめほたるでの多言語対応は重要性を増すと思われる。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学校や団体等の施設見学について、幼稚園～大人の年齢層に沿った説明を工夫して実施したり、見学時間や説明内容などを相手方と調整し、希望に沿った見学が提供できるようしたるするなど、臨機応変に対応している</li> <li>● 海洋プラやリチウムイオン電池火災の問題について、展示物等を見学ルート上に適切に配置し、見学者が理解しやすいように工夫している。</li> </ul>	A		

項目		評価項目	指定管理者自己評価 評価年度においての実績や右評価とした評価事項等	評価
運営事業等に関する項目	11	(環境情報センター管理業務) 環境に関する書籍や各種資料、映像、ネットコンテンツ等を適宜収集し環境情報の提供が実施されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境に関する各種書籍や資料を継続して収集している。令和5(2023)年度には、寄贈と購入合わせて290冊増え、蔵書冊数は計5,632冊となった。利用人数は1,346人だった。</li> <li>●環境読書感想文コンクールを平成30(2018)年度より継続実施し、次世代に環境問題について考える機会を提供している。令和5(2023)年度は全国各地から39点の応募があった。能勢町立能勢ささゆり学園の6年生が地域賞を受賞している。水俣病を題材とした本を読み感想文に挑んだ団体もあり、「優秀な作品が多く、審査に苦労した」と審査員からうれしいコメントをいただいた。</li> </ul>	A
	12	(講演会、講習会、研究会等開催業務) <ul style="list-style-type: none"> <li>●ごみ問題や環境問題のほか、地域の自然や人々の暮らしに役に立つ講演会や講習会が実施されている。</li> <li>●環境分野に関連する専門講師を招き、環境啓発事業が実施されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●天然記念物のお花見(エドヒガン)、バードウォッチング、ホテル観賞、間歩・鉱石観察会、天体観望会(2回)などを実施し、地域の自然に触れる機会を提供している。間歩・鉱石観察会に参加された中学生が、猪名川流域で採取した石を講師に同定してもらい、自由研究の成果として提出したところ高評価を得たとの報告をいただいた。</li> <li>●第4期里山保全技術者養成講座「里山学校」を9月から3月にかけて全11回実施した。「里山を伐って、使って、繋げる」をテーマに兵庫県立人と自然の博物館の研究者ら13組の講師を招き、山にすむ野生生物についての知識や伐採した木を運び出す技術、ジビエ料理の作り方等を学んだ。</li> </ul>	A
	13	(リサイクル工房活用業務) <ul style="list-style-type: none"> <li>●リユース・リサイクルについて体験型工房を活用した講習会が実施されている。</li> <li>●日常生活に役立つノウハウで習得できる講習会が実施されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●リサイクル工房(修理工房、制作工房、軽作業室)を活用しリサイクルやリユースの体験講座を実施している。つまみ細工教室は多くのキャンセル待ちが出たため、講座数を増やして対応している。また、夏休みの親子でできるワークショップとして、廃ビンを使ったハーバリウム講座を実施し好評を得た。ビンだけでなく、中に入れるドライフラワーも捨てられた材を利用している。里山クラブ木工班では、小物入れ、クーラーの室外機カバー、アロマオイルの陳列棚、スツール、植木鉢台、二段式の花台など、参加者がそれぞれ作りたい物を制作している。</li> <li>●着物リメイク教室は日常生活で使えるものに主眼を置いたアップサイクルの人気講座で、のぼり制作時の裏紙を型紙として再利用している。紙に転写し持ち帰り、自宅で制作される方もおられ、日常で役立てていただいている。リニューアルされた広報誌「森の泉」の新しいコンテンツとして「エコクッキングコーナー」を設け、ゆめほたる講師と共に制作工房で試作している。エコクッキングコーナーのレシピは、各家庭でも役立てていただける。</li> </ul>	A

所管課評価 指定管理者のヒアリングにおいて、確認した事項 等	評価	評価協議会評価 協議会内での質疑回答、備考等	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 外部から図書の寄贈があり、蔵書が充実している。珍しい図書も含まれており、来館者から評価を受けている。</li> <li>● 「公募ガイド」ネット版に募集記事を掲載することなどにより全国から応募があったことは評価できるが、応募点数は前年度（128点）から大きく減少しており、今後は学校への参加呼びかけの際は、応募点数の増加につながるような取り組みを期待する。</li> </ul>	B		
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 里山学校が「里山を利用する」ことを学習のコンセプトとして企画・運営され、受講生から好評を得た。</li> <li>● 里山学校の修了生が里山クラブに参加したり、地域の里山保全活動に参画したりしている。</li> <li>● その一方で、広く一般の市町民向けの講習会等が開催されなかった。</li> </ul>	B		
<ul style="list-style-type: none"> <li>● イベントの幟（のぼり）制作時に発生する裏紙を講座の教材に利用するなど、ゆめほたるの特長を生かした工夫がされている。</li> <li>● 分解ワークショップが好評であり、他の環境啓発施設などでも開催されるなど横展開されている。他の施設で好評なイベントや講座もゆめほたるに取り入れている。</li> <li>● 「食」について考えるエコクッキング、使用されなくなった物をリメイクし新しい物に生まれ変わるレザーリメイク教室、廃材を利用した木工教室など、多くの講座を実施して新規およびリピートの参加者を集め、継続的に実施している。休憩時には参加者同士でごみや環境についての会話が交わされ、環境意識の向上につながっている。</li> </ul>	A		

項目		評価項目	指定管理者自己評価 ●評価年度においての実績や右評価とした評価事項等	評価
運営事業等に関する項目	14	(屋外及び屋内を活用したイベントの開催) ●ファミリー層等多世代に向けた環境啓発につながるイベントが実施されている。	●多目的広場や館内でフリーマーケットを実施し、リユース活動の場を提供している。5月の屋外フリーマーケットは雨天中止となったが、館内で子ども向けの環境に関する劇などを実施した。9月の館内フリーマーケットは出店 61 ブース、来場者 795 人、11月の屋外フリーマーケットは出店 50 ブース、来場者 747 人、3月の館内フリーマーケットは 61 ブース 来場者 785 人と盛況だった。 ●9月と3月の館内フリーマーケットでは、JFE のご協力をいただきリユース家具を多数取り揃え、集客とリユース啓発に力を注いだ。11月の屋外フリーマーケット開催の際には令和 4 (2022) 年度に引き続き、ひょうご環境創造協会と連携し「うちエコ診断」を実施し、光熱費節約の観点からの CO2 削減に向けた診断を行った。	A
	15	(屋外観察会開催業務) ●里山を中心とした四季折々の自然を体感できるイベントが実施されている。	●4月のエドヒガン観察会と5月の野鳥観察会はゆめほたる里山クラブメンバーの協力を得て実施。冬の天体観望会では猪名川天文台運営委員会と連携した。こうしたイベントは、敷地内里山林および多目的広場を会場に開催したもので、参加者に屋外の自然を体全体で感じていただいた。 ●野鳥観察会では防鹿柵の内外での植生の違いなどについての解説も加え、増え過ぎたシカによる里山の問題とボランティアによる保全活動の大切さについても知っていただくことができた。さらに、里山保全活動での発生材を活用しバードコールを制作し、森の中での野鳥観察マナーの啓発に繋げた。	A
	16	(ボランティア運営業務) ●ボランティアの育成を行い、各種グループとの連携を図りながら事業が運営されている。	●第1期～3期の里山保全技術者養成講座修了生がゆめほたる里山クラブ員として敷地内の里山保全活動を行っている。ハード面の森林の保全整備と、ソフト面の環境学習の場の提供をあわせて行っている。令和 5 (2023) 年度は第4期生の養成講座を実施し、19名の新たな里山ボランティアが誕生した。 ●環境活動に意欲的な方々に対して、集いの場・交流の場を提供している。地域福祉施設や地域の団体などの連携も増えている。	A
	17	(広報活動) ●広報誌「森の泉」やホームページ等各種媒体を使用して、施設の宣伝や環境啓発が実施されている。	●広報誌「森の泉」は A4 判サイズ、年 4 回発行となり、「読みやすい・見やすい」と好評である。今後もわかりやすい紙面構成を心掛けたい。クロスワードクイズとアンケートの回答はハガキに加えて WEB 回答も可能となったこともあり、前年度比 207.7% の年間 1,263 件となった。 ●100 号記念号の表紙には、川西市、猪名川町、豊能町、能勢町のマスコットキャラクターを揃え、施設全体を使った撮影会を行うなど、組合と協力して発信力のある紙面作りに努めた。 ●インスタグラムでの情報発信にも努め、104 件を投稿した。	A

所管課評価 指定管理者のヒアリングにおいて、確認した事項 等	評価	評価協議会評価 協議会内での質疑回答、備考等	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>●フリーマーケットをはじめ、「ジャズとほたるの夕べ」や天体観望会など、親子や大人同士で楽しむ、自然と触れ合える屋外イベントを継続的に実施している。</li> <li>●早々に定員が埋まるイベントもあり、なるべく初めての方が受講できるよう「初めての人枠」の設定など、応募条件を工夫されたい。</li> </ul>	A		
<ul style="list-style-type: none"> <li>●エドヒガン群生林や野鳥、ほたる、星空など、恵まれた自然環境を活かした企画が実施され、多くの参加者を集めている。</li> </ul>	A		
<ul style="list-style-type: none"> <li>●里山ボランティアは約40名が参加している。前年度よりも増加した。</li> <li>●ゆめほたるクラブは地域のボランティア活動にも積極的に取り組んでいる。</li> </ul>	A		
<ul style="list-style-type: none"> <li>●積極的にInstagramに投稿を続けている。内容によって反応が良い。</li> <li>●イベントのチラシを近隣の集客施設に配布し置いてもらう努力を続けている。</li> <li>●積極的にプレスリリースを6件行い、うち2件は記事化された。</li> </ul>	B	<p>【確認事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●広報誌「森の泉」のリニューアル効果により、講座の申込数が大幅に増加し、新規のお客さんも増えてきている。また読者アンケートについてもはがき回答に加え、インターネット回答を導入したことにより回答数が大幅に増加した。</li> <li>●一方、森の泉の編集作業において、組合職員及びゆめほたるスタッフに必要以上の負担がかかっていることを確認した。</li> </ul> <p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●広報誌のリニューアルにより、当センターへの関心が高まり、ゆめほたるの来館者数や講座に新規の参加者が増えてきていることは、素晴らしいことだ。一方で広報誌を担当しているスタッフに負担がかかっていることは、改善していただく必要がある。</li> <li>●広報誌を担当するデザイナーと逐一コミュニケーションをとることを含め、今までの進め方を見直すことも検討してはいかがか。</li> <li>●これからも互いが協力することで、良いものを作り上げてほしい。</li> </ul>	

項目		評価項目	指定管理者自己評価 評価年度においての実績や右評価とした評価事項等	評価
運営事業等に関する項目	18	(貸館の利用状況) ● 多目的広場や管理棟内等貸室の活用方法及び貸出方法について、稼働率を高めるための取組みが実施されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●多目的広場については日ごろから天然芝のメンテナンスを丁寧に行い、利用者が満足して使っていただける環境づくりに努めている。スポーツ利用の場合には天候、芝生状況、利用者からの希望、駐車可能台数など、様々な調整をしながら貸出業務を行い、良好な業務遂行に努めた。</li> <li>●来館者の見学ガイドを行う際には、各工房や視聴覚室の説明も行い、お客さまの事情に応じて貸し出しをしていることをご案内している。</li> <li>●人気講座は講座実施回数を増やし、稼働率を高めている。</li> </ul>	A
	19	(出前講座・出前展示の実施) ●地域の各種団体や学校等でニーズに応じた出前講座が実施されている。  ●地域の各種施設で展示啓発が実施されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の各種団体のご希望に沿った出前授業や展示等を実施している。豊能町の社会福祉法人 豊悠福祉会「祥雲館」ではごみ減量講座を実施し、今まで悩んでいたごみの分別方法がわかって良かったと感想をいただいた。</li> <li>●啓発のための出前展示は、川西市役所、キセラ川西プラザ、イナホール、豊能町立図書館、川西阪急などで実施した。多くの方々の目に触れることで啓発につながった。</li> <li>●6月にイナホールで開かれたいながわキッズフェスティバルでは、フードドライブについての宣伝を行い、ゆめほたるへのお米の1,020kgの寄附へつながっている。</li> </ul>	A
	20	(地域活性化、地域貢献) ●地域活性化や地域貢献に寄与するイベントが実施されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●フードドライブ事業を継続しており、令和5(2023)年度は10件1132.6kgを受け入れ、地域のこども食堂や社会福祉協議会へ寄附した。</li> <li>●新しいコンテンツとして一庫ダムと連携し8月に流木アート作品の展示を行った。</li> <li>●兵庫県立川西明峰高校の「明峰の学び」の講師として平成30(2018)年から継続参加している。明峰の学びは地域や大学の様々な分野から招かれた講師が授業をする「総合的な探求の時間」の活動の一環。生徒が飽きないような授業作りを心がけ、令和5(2023)年度はすごろくゲームを新たなコンテンツとして盛り込み、好評だった。</li> <li>●「多田グリーンハイツサマーカーニバル」や「能勢みんなのつどい」、豊能町祥雲館「森のフェスティバル」などの地域コミュニティーや地域福祉施設の祭りへの参加や環境啓発パネルの展示などによる地域活性化への協力を行った。</li> </ul>	A
	21	(里山林等維持管理) ●敷地内の里山を含む緑地や植栽の維持管理が適切に行われている。  ●里山を活用した事業が実施されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●継続して、国崎クリーンセンター里山保全委員会を開催し、学識経験者や森林整備専門家などから国崎の里山林保全についてのアドバイスを得ながら、ゆめほたる里山クラブも交えて、維持管理を行っている。</li> <li>●天然記念物のお花見、野鳥観察会、寝ころびヨガ、新割り体験、間歩・鉱石観察会など季節ごとに里山を活用したイベントを実施している。</li> </ul>	A

所管課評価 指定管理者のヒアリングにおいて、確認した事項 等	評価	評価協議会評価 協議会内での質疑回答、備考等	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 会議や（団体の）総会などでの貸室の利用が徐々に増えている。</li> <li>● 貸室に午後に空きがある場合、午前中に利用している団体に午後の利用を打診したり、雨天で多目的広場がぬかるんだ場合、1時間ずらしての利用を打診したりして、利用が増えるよう努めている。</li> <li>● 新規の利用を伸ばすのが課題である。</li> </ul>	A		
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 施設の外部に積極的に出かけ、環境に関する啓発活動を行っている。</li> <li>● 新たに川西阪急で期間限定の出前出展やワークショップを行い、多くの人に持続可能な循環型社会実現の取り組みや環境についての啓発ができ、来場者の気づきや学びに結びついた。川西阪急での展示を見た人がゆめほたるを訪問した事例がある。</li> <li>● フードドライブのPRが子ども食堂へのお米の寄付につながった。</li> </ul>	A		
<ul style="list-style-type: none"> <li>● フードドライブ活動が徐々に地域に浸透しており、地域の子ども食堂などへの食料品の寄付に結びついている。</li> <li>● 新たに流域である猪名川や知明湖の環境保全活動（一庫ダム「流木ペインティング」）との連携が実り、参加者の意識啓発によって今後の廃棄物の有効利用とごみ減量への貢献につながることを期待したい。</li> <li>● アウトリーチで地域の催しなどへ参加することで、展示出展がより多くの人たちへの環境啓発につながっている。</li> <li>● 昨年度に引き続き「明峰の学び」にゆめほたるスタッフが講師として参加し、高校生から好評を得ている。</li> </ul>	A	<p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ゆめほたるがシャトルバスを運行するようなイベントの際には、可能な範囲で同じ地域にある一庫ダムやキャンプ場、一庫公園などと合同開催としてシャトルバスを共同利用できるように配慮ではないか。</li> </ul> <p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域活性化や地域貢献がよく行われている。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 里山クラブの活動が「桜功労者表彰」に結びつくなど、高い評価を受けている。</li> <li>● 里山ボランティアが防鹿柵の状態確認や危険木の発見・伐倒などに貢献している。</li> </ul>	A	<p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ボランティアや専門家などと連携して、地元黒川地域の特色の一つである里山を保全することは、施設周辺地元の方々のごみ処理施設そのものへの理解にもつながり、大変重要である。よって、この項目が A 評価となっていることは大変意味のあることだと思われる。</li> </ul>	



項目		評価項目	指定管理者自己評価 評価年度においての実績や右評価とした評価事項等	評価
運営事業等に関する項目	22	<p>(市町・各種団体との連携、協働、支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●市町・各種団体と連携・協働しながら環境施策等への支援が実施されている。</li> <li>●次世代育成の観点から、施設見学や環境学習におけるさらなる啓発効果を高めるための取り組みが実施されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●川西市教育委員会が各小学校の担当者を対象に3月に開催している説明会へも参加し、スムーズな団体見学対応が出来るようにしている。また、豊能町と能勢町の教育委員会と連携して、ゆめほたる見学後の成果物(ペットボトル工作や環境新聞、竹楽器とひょうたんマラカス)を館内展示した。</li> <li>●川西市と猪名川町の教育委員会と連携して、トライやるウィークの中学生を受け入れ、環境学習の体験の場を提供した。</li> </ul>	A
	23	<p>(新規事業等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●事業を常に見直し、業務改善に取り組み、新たな事業を展開している。</li> <li>●特に力を入れて取り組んだ事業。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人気コンテンツで、多くの来場が見込め、リユース促進に効果的なフリーマーケットは、特に力を入れて準備している。開催に当たっては、規約の見直し、当日の誘導など、回数を経るごとに随時見直しを行い安全な運営に努めている。コロナ禍で外で開催していた9月のフリーマーケットを4年ぶりに館内で開催した。涼しい館内でのフリマは賑わった。同時開催のリユース家具抽選会では76点の家具をお持ち帰りいただきごみ減量につながった。</li> <li>●新規の事業としては、2月に行った川西阪急での出前出展が特筆すべきものだった。海ごみ現物展、環境イラストコンテスト入賞作品パネル展、ワークショップなどを行い、国崎クリーンセンターとゆめほたるになじみのなかった方々への周知やごみ減量啓発などの活動ができた。ゆめほたるの講座への新規申し込みもあった。</li> <li>●地域の小学4年生の団体見学受け入れについては、引き続き力を入れている。ゆめほたるで独自制作した紙芝居を使った説明を継続している。令和5(2023)年度は海ごみについての説明やレッドカップマークのついた食品を買うと国連が行っている貧困国の子供への食糧支援につながることを知ってもらった。海ごみの現物展示やマークのついた食品の現物を見せることで子どもたちの理解を助けた。</li> </ul>	A

所管課評価 指定管理者のヒアリングにおいて、確認した事項 等	評価	評価協議会評価 協議会内での質疑回答、備考等	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 様々な形で各市町の教育委員会や学校との連携を工夫・展開されており、施設見学等を通じた環境学習の拠点施設としての切れ目のない取り組みが、個々の環境啓発の成果につながっている。</li> <li>● 川西市と環境月間における啓発活動を協働で行った。</li> </ul>	A		
<ul style="list-style-type: none"> <li>● ミツバチの飼育事業の実現に向け調査・研究を進めるなど、新しい企画を考案しようとする意欲が高い。新たな企画について、参加者・来館者の声を基にして、あらゆる場面を通じてスタッフ全員で自由に発想し企画している。</li> <li>● フリーマーケットについて、コロナ禍が明けたことを受け、開催場所を従来の館内に戻すこととし、それに向けて十分な準備を行った。その結果、参加者から「涼しくてよかった」などの高評価を受けた。</li> <li>● 川西阪急での出前出展が多くの人に啓発施設「ゆめほたる」のことを認識してもらう良い機会となった。引き続きこのような機会を捉え積極的に PR することを期待する。</li> <li>● 国外からの団体（インドネシアの中学校）から突然の見学申し込みがあった際にも、スタッフが協力し合って、各見学窓に英文の表記を掲示し、国際的な視点に立って多言語で対応に努めるなど、臨機応変に対応した。</li> <li>● 里山林の自然学習ゾーンマップ「自然学習ゾーン information（カラー版）」をスタッフが手作りでデザインし、里山見学者の自然学習の理解を深めるための教材として日々有効活用している。</li> </ul>	A		

<b>総合評価</b>  <b>A</b>	<p>「管理体制等」「運営事業等」が A 評価、「経営状況等」が B 評価であることから、「総合評価」は A 評価とする。</p> <p>【評価のコメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 「管理体制等」については、スタッフの労働面においても配慮がなされており、また、安全管理体制に関してもマニュアルが整備されている。利用者からの苦情やリクエストにも真摯に対応し改善を図っている。</li> <li>➤ 「経営状況等」については、経理処理がおおむね適切に行われている。ただし、事業収入が計画より下回ったことなど、今後の改善を期待する。</li> <li>➤ 「運営事業等」については、コロナ禍が終息に向かい利用者数が回復傾向にある。様々な講座やイベントなどを工夫して開催しており、利用者の満足度も高い。国崎の特長である里山をボランティアとともに積極的に保全していることが評価できる。</li> </ul>
-----------------------------	---

<b>付帯意見</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ コロナ禍を経験して人々は野外での活動を求める傾向が強いので、国崎 CC の強みとして屋外でのイベントや講座などを充実されたい。</li> <li>◆ 利用者数の増加を引き続き図られたい。</li> <li>◆ 今後需要が高まると考えられるインバウンドへの対応として、案内や説明などを工夫されたい。</li> <li>◆ 広報誌の編集作業の充実と効率化を図り、伝えたいことが住民により伝わり啓発効果が高まる紙面づくりに取り組まれたい。</li> <li>◆ 周辺の施設などとの連携を深め、例えば合同イベントを開催することや、その際にはシャトルバスを運行することなどを検討されたい。</li> </ul>
-------------	---

<b>付帯意見 への対応</b>	
----------------------	--

